

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2020No.181】（HP 収載）

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト他

曲名：セレナーデ第 10 番変ロ長調《グラン・パルティータ》他

演奏：キリル・ペトレンコ指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/53016#>

2020 年 6 月 14 日のベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



概要は [6 月 15 日の研究室日誌](#) で次のとおり報告しています。

BPODCH のサイトでベルリンフィルによる、ザ・ベルリンフィル・シリーズの無料中継のアナウンスがありました。今回は、キリル・ペトレンコライブと題して、無観客公演のライブです。

キリル・ペトレンコ指揮ベルリンフィル

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

セレナーデ第 10 番変ロ長調《グラン・パルティータ》

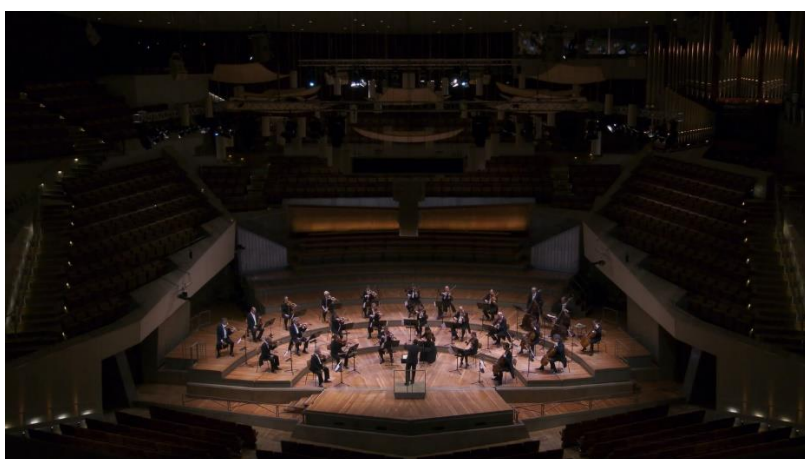
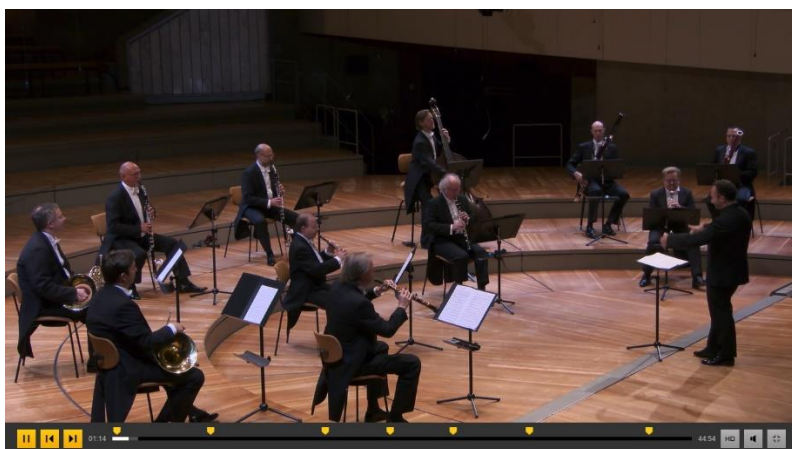
アントニン・ドヴォルザーク

弦楽のためのセレナーデ ホ長調

プログラム

今回のベルリンフィル・シリーズでは、首席指揮者キリル・ペトレンコの指揮による弦と管のアンサンブル作品が演奏されます。モーツァルトの《グラン・パルティータ》は、13 の管楽器のために書かれた大掛かりなハルモニウムジークで、7 楽章構成、演奏時間約 50 分という異例の大曲。一方、ドヴォルザークの弦楽セレナーデは、作曲家 33 歳の年に書かれた比較的初期の作品です。スラヴ風のメランコリーと舞踏的な陽気さが混じった曲調となっています。

今回、アーカイブでじっくり聴いてみました。
写真のように、中規模の編成で奏者間の距離を確保しての演奏です。





通常の編成では、指揮者の指示に従うとは言え、演奏者は近隣の演奏の音を聴きながら合わせていくそうなので、これだけ離れていてどうかと思いましたが、これまでと同様、さすがに名手そろいのベルリンフィルだけあって、完璧なアンサンブルです。

また、無観客のホールですが、違和感なく、むしろ環境ノイズがない分、スタジオ録音されたパッケージメディアを聴いているような印象もあります。

以上